社会保障Ⅰ 2024年4月17日（木）　3限目13：00～14:30講義室 3F304

第2回【少子高齢化・人口減少と社会保障】少子高齢化の動向

●リアクションペーパー＃2

学科名　　　　　　　　　学年　　　　学生番号　　　　　　　氏名

第2回【少子高齢化・人口減少と社会保障】に関して、以下の記述のうち、明らかに間違っている記述を１つ選んで、その番号を答えなさい（番号に◯）。

1. 令和6（2024）年10月1日現在、日本の総人口は1億2380万2千人、前年同月から55万人減少。ピークは2008年の1億2808万人で、 2011年から連続して減少している。
2. 国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来人口推計」令和5（2023）年）年推計によれば2056 年には 1 億人を切り、2070 年には 8,700 万人とピーク時の3分の２まで減少する
3. 令和５年（2023）人口動態統計（確定数）によれば、出生数は 72 万 7288 人で、前年の 77 万 759 人より 4 万 3471 人減少し、合計特殊出生率は 1.20 で前年の 1.26 より低下し、過去最低となった。
4. 日本の合計特殊出生率は戦前から戦後にかけ４人以上あったが、1947‐49年生まれ＝第１次ベビーブーム（団塊の世代）の後、1950年代に優生保護法の改正・中絶自由化などにより、３人以下に急減し、1971年から1974年の第２次ベビーブーム（団塊ジュニア世代）の頃に２人となり、その後、1975年から２人を切り、現在まで半世紀近く低下を続けている。
5. 国連の将来人口推計2024（UNWPP24)によれば、すでに世界人口の3分の２は、合計特殊出生率が２.1人以下（置換水準）の地域に住んでいる。
6. 日本の高齢化率（65歳以上）は29.4％で世界一、後期高齢者（75歳以上）は16.8 ％なので高齢者の半分以上。年少人口（15歳未満は11.4 %,生産年齢人口15-64 歳は59.7％（2024年1月現在）。
7. 「2025年問題」とは、団塊の世代が75歳以上になり、後期高齢者が前期高齢者より多くなり、要介護・認知症の人が急速に増加することをいう。
8. 日本の平均寿命は、2024年現在、男性81.09歳、女性が87.14歳に達しているが、国際的にみれば、高齢者福祉の先進国であるスウェーデンに比べれば、まだまだ短い。
9. 人口減少は止まらないが、長期的には高齢化率40％、年少人口10％、生産年齢人口50％で安定化する。また高齢者の増加は2043 年の3,953 万人がピークなので、4000万人を超えることにはならない。
10. 日本ので少子化対策の始まりは、1990年の1.57ショックで、前年（1989（平成元）年）の合計特殊出生率が1.57を記録、過去最低であった1966（昭和41）年の「ひのえうま」の1.58を下回ったことが契機で1994年（H6)に エンゼルプラン：子育てと仕事の両立支援が最初である。